

Music

ジャック・ジョンソンのファーストアルバムとの出会い

Text: George Cockle
文/ジョージ・カックル

Mitsuyuki Shibata



Jack Johnson



今年の2月、俺は友人と仕事のためにハワイへ行った。サーフムービー『ウイングナット・アート・オブ・ロングボーディング Part3—ザ・クエスト・フォア・スタイル』の撮影のためだ。このシリーズはその何年か前に、ウイングナットと始めたロングボードのハウツーシリーズの3作目。2週間以上、ハワイ・ノースショアのププケアというポイントの目の前の家を借りて、そこで毎日のように(自分達も!)サーフィンしながら撮影をしたんだ。その家のオーナーはビデオにも出てもらっていたレジェンド・サーファー、マーク・マーチンソン。そのムービーにはウイングナットをはじめ、驚くほど豪華なサーファー陣が出演してくれている。ボンガ・パーキンス、ジョエル・チューダー、アレックス・ノスト、河村正美、細川哲夫、モーレン・ドラミー、ランス・ホッカノ、故タイガー・エスベラまで……。どうだ、豪華なキャストだろう!

で、その撮影の時の話だ。マーク・マーチンソンは俺達に、あるCDを貸してくれた。それはジャック・ジョンソンのデビューアルバム『Brushfire Fairytales』。きっとそれはサンプル版だったんだと思う。マークは俺達にこう言った。「このアルバムは俺の家の

並びに住んでいる友達の息子のアルバムだ。ビデオのなかで使ったらどうだ?」ってね。俺達はそれを聞いたけど、正直言って、あまりピンとこなかった。とりあえず、連絡を取ろうと試みたが、なぜかその時は取れなかった。でもそれほど感動していなかったから、そのままにしてしまった。ジャックののんびりした感じに、入り込めなかったんだ。メロディーも頭に残らなかった。

その何年か後、ジャックは世界中、そして日本でも大ブレイクした。俺もすごいファンになった『On And On』や『In Between Dreams』というアルバムを毎日聴くようになって、その次のサントラ『Curious George』も手に入れた。幕張メッセのライブも観に行った。その時は楽屋まで忍び込んで、一緒に写真まで撮ってもらったほどだ。(俺だったら、調子いい!)今ではもう、俺はアルバムが出るたびに聞きこんでいる。そこで去年、ハワイで初めて聞いた彼のデビューアルバムを聞き直してみた。そうしたら、やっとこのアルバムの良さがわかった。もちろん最初は俺と同じに彼の最近のアルバムほど出来が良くないと思う人もいると思う。すごく素朴でシンプル、本当にメロウ、いやメロウ過ぎるかもしれない。でも俺はやっとこ

のアルバムの良さがわかってきた。

そう、こんな感じで好きになるのに、すごく時間がかかるものがある。例えば、パクチーみたいなクセのあるもの。俺は初めてカリフォルニアでパクチーが入っているメキシカンブリトーを食べた時、思わず吐きそうになった。でも今じゃ、余分に入れてもらうほど好きだ。それはもしかしたら、その時の状況かもね。俺の心にはジャックを受け入れる余裕がなかったのかも。みんなそんな経験があるだろう。人づきあいだって同じだ。もちろん別れた恋人も、今だったら受け入れられるかもしれない、なんてね(笑い)。

ジャックのデビューアルバム『Brushfire Fairytales』を聴いてみよう。きっとジャックの最近のアルバムが好きだったら、好きになれる俺は思う。彼がこれほどの人気になる前に、ノースショアの海岸でギター一本抱えて、夕陽を見ながら歌っているジャックの声が風に乗ってくると思うよ。



ジョージ・カックル ● 60~70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴38年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com